磐城時報

夕刊 十七日

福島縣石城郡平町紺屋町十四 編輯兼發行人 岡田弘毅
福島縣石城郡平町紺屋町十四 印刷人
印刷所 加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十四 發行所 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五拾錢
▲日刊(日曜、祭日)休刊

第三校への寄附問題で 鎌田區長再び批難
區民有志が聲明書發表

平町鎌田町區長仲野伊重氏は既報の如く夏井川沿岸の改修工事に關し區長としての態度公明を欠いた点あるため同町草野七五三之助氏外數名から排斥され彈劾の決美文を平町長まで提出されたが、仲野區長は該問題が未だ決らぬうちに又々問題を起したので同町高島亥之吉、豬狩觀德、荒川元佑、影山定之助各氏は仲野區長の不法行為に對し更に區民諸君に訴ふといふ聲明書を出し猛烈な彈劾運動を行つてゐるが、仲野區長が新たに批難されるに至つた問題は第三小學校庭に寄附植樹をなした櫻の木は仲野區長一派の人々でのみ協議し反對の人々には話さず、而も寄附した櫻の木には全部寄附者の氏名を書いた札をつけておくので兒童教育上面白からぬ結果を招來してゐるといふ問題で同町民はかゝる行為を平氣でやる區長は全く常識を疑はざるを得ないから飽くまで排斥せねばならぬといきまいてゐる。

勿來町で小作人表彰

石城郡勿來町振農會では例年の如く十五日午後一時から同町青年會館に於て優良小作人表彰式を擧行したが、受賞者左の如くである
一等窪田赤津要八、二等酒井荒川米太郎外三名、三等窪田小松榮藏外五名、四等酒井荒川政重外七名、五等大高皆川政夫外十九名

▲算術講習會

石城教育部會の小學校教員算術講習會は二十五日午前九時から三日間平町第一小學校講堂に開催する。講師は女師教授岩下吉衛氏である。

▲兵事主任會

平警察署管內平町外三町十七ヶ村兵事主任會は二十一日、二十二日の兩日午前九時から平署會議室で開き陸軍召集並に徵發事務の打合せをなすと。

けふ子鍬倉神社々頭に 入營兵歡送式
伏見町長の送辭

平町入營兵の歡送會は十七日午前十一時から縣社子鍬倉神社社頭で擧行した、入營兵三十名は夫々各町青年團員と共に參集、參會者百數十名で伏見町長の送辭後、石城郡町村長會支部長、平在鄉軍人分會長その他の送辭あり、之に對し入營兵總代金成章氏が答辭を朗讀し正午散會した。

送辭

茲に本日をトし縣社子鍬倉神社の大前に於て本町有志各位と共に本年入營兵金成章君外二十九名の前途を祝福せむが為嚴肅なる祭儀を執行し、更に清楚なる送別會を開催することを得たるは本職の深く欣ぶとするところなり(中略)抑も人道を尊重し正義を擁護せんとするは我が建國の一大精神にして三千年の歴史炳として之を明證するところたり今や劃時代的倫敦條約の成立を前にして益々世界平和と國際親善の促進に努むるは締盟國の一員として正に當然のところなりと雖も我が帝國の情勢を靜觀すれば俄に偸安を許さざるものなしとせず海外に於ける我が正當なる既得の權益を確保する亦容易の業に非らざるを想へば國防の整備充實益々緊切なるものありと謂ふ可きなり、此の時局に當り諸君は選ばれて國家の干城となる其の榮譽獨り諸君の最大面目たるに止らず本町又最も光榮とするところなり。希くば神明の加護に依り精勵能く困苦艱難に堪へ一旦急あらば國防の第一線に立ちて盡忠報國の大義を宣揚し以て諸君の双肩に托されたる榮譽ある重責を全ふし又鄉に歸るの曉は質實剛健なる軍人精神を以て鄉黨啓發の大任を果されんことを望む。聊か微衷を述べて送辭とす。

昭和五年十一月十七日
福島縣石城郡平町長 伏見彥衛

石城の產業組合で 米價對策の協議
低利資金融通に關し陳情

石城郡內產業組合聯合會の協議會は十六日午前十時から平町各種團体事務所に開き會長山崎與三郎、副會長酒井専治氏以下役員列席參加組合は平庶民金庫外十組合で米價對策について協議した結果左の如き決議をなし來る十九日山崎會長、酒井副會長草野信用組合長芳賀辨之助、錦信用組合長星友太郎の各氏が出縣し決議文を提出して實現運動を行ふ事になつた、即ち組合が低利資金を借入れるには從來大浦、勿來、江名の三農業倉庫に米を入れそれを擔保として借金したのであつたが、今後は信用組合の指定倉庫の米に對し組合理事が證明書を出せば之に對し低利資金を融通するやうにして貰ひたいといふ決議である。決議文左の如し。

決議

信用組合を經營する組合は必ず農業倉庫を兼營する前提として本年は取敢ず臨時借入倉庫の預證劵に依つて縣信用組合聯合會並に產業組合中央倉庫に於て特殊低利資金の融通せらるゝ樣縣信用組合聯合會並に產業組合中央倉庫及縣に請求し其の實現を期する事。

大成功をおさめた 超特急試運轉
明春から直ちに實施 鐵道當局大喜びで語る

平驛を中心として上野、青森間の超特急の試運轉は既報の如く上野、平間は十六日午後零時上野驛發、平、青森間は十五日午前八時一分青森驛發で行はれた双方共豫定所要時間內で運轉、上野、平間は二時間五十六分五十秒、平、青森間は八時間五十分で何れも驚異的大成功で各列車共東京、並に仙臺の鐵道局から試驗官乘り込みこの分では來春早々超特急を實施すると語つてゐた、双方の乘組員は夫々平驛に下車して語る。

▲上野、平間乘組員談　十六日午後〇時四十五分上野發、四十九分日暮里、五十四分北千住と瞬間に帝都の芥塵を蹴散らして驀進、江戸川は八十五キロの速度で突破、時に一時、かくて千葉縣に入る利根川にさしかゝる頃の速度は實に九十五キロ、かくて千葉縣は約廿分間で失敬し、茨城縣に入るや一時線路の關係から速度を下ろしたが間もなく非常な勢ひで挽回して赤塚內原間では百八キロ(六十六マイル)余、水戶に豫定時間より四分早く二時廿三分卅秒に安着した、こゝで一時間余を休憩した、列車は三時卅六分再び出發平均七十キロの速度で北進し、いよいよ福島縣に入る。勿來を八十キロの速度で突破しグングンとスピードを上げて綴あたりは九十五キロのスピードで突進、平着が四時五十四分五十秒、豫定より十分早く到着した。

▲平、青森間乘組員談　十五日午前八時一分折柄の吹雪を突いて青森驛のスタートを切つた、同列車は青森、尻內間九五七キロを一時間廿八分卅秒で走破して午前九時廿九分卅秒尻內驛着、尻內、盛岡間一〇九キロを一時間四十八分卅秒で突破し午前十一時卅三分盛岡驛着、午後零時卅六分同驛をスタートして第二コースたる仙臺に向つた、仙臺に午後三時卅六分到着した超特急車は同四時十六分同驛發豫定よりも一分早く、同六時四十分平驛に着いた。仙臺よりの所要時間二時間半で試運轉全區間では正味所要時間八時間五十分、普通列車よりは實に六時間も早く、途中一回の事故もなく申し分のない好成績を收めた。

スポンヂ野球戰
磐炭礦務再び勝つ

石城郡スポンヂ野球大會は十六日午前八時から平第一校庭で擧行、戰跡左の如く磐城炭礦礦務課二年續けて優勝した。

▲第一回戰(九日の續き)
磐城運輸 3A―1 南町二部
平遞友 11―4 湯本

▲第二回戰
磐炭運輸 5A―3 四倉
磐炭礦務 1A―0 南町一部
平遞友 4―1 がんばり

▲準決勝
磐炭礦務 4―3 町田
磐炭運輸 3―2 平遞友

▲決勝戰

磐礦	1	0	2	1	1	0	A	5A
磐運	2	0	0	0	0	0	0	2

酒井ミヨ女史 銅像除幕式

平町平陽女學校創始者酒井ミヨ女史の銅像除幕式は十六日午前十時から同窓生並に生徒一同其他來賓者多數參列の上令孫智惠子孃によつて除幕された、次いで津島きみよ女史の工事報告、阿部ふで女史の式辭、來賓伏見町長、遠藤助役、橋本磐中校長井上前縣議、本多同校名譽校長大和田佑賢學舍長等の祝辭あり正午閉式した。

▲石城青團總集會

石城郡內勿來、植田の二町を中心とする聯合青年團總集會は來る十一月二十三日植田小學校內に於て開催する事となつたが、辯論及運動競技等の催しがある

▲慈善三曲演奏

慈善 三回演奏大會は來る十一月二十三日午後五時より平町聚樂館に於いて開かれる筈である。

老人二名自殺

小名濱町に居住茨城縣久慈郡小里村生れ徳之助母鈴木ハツ（七六）は十三日午前六時頃同町藤原川に投身溺死した、尚同町上町金城寅之助（七二）は十三日午前十一時頃自宅土間において縊死を遂げた、原因は不治の中風病を苦にしたらしい。

鎌田町の娼妓 遂に死亡

平町遊廓萬歳樓娼妓紅梅事小林まつ（二二）が去る十四日午前一時頃同町字南町伊藤定治（二四）と合意の心中を圖り、まつが猫イラズを嚥み同町鎌田町金成醫院で治療中であつたが十五日夜半遂に死亡、その場を逃げた定治は自殺幇助罪として十七日平支部檢事局に送られる筈。

堂の前に 行路病人

平町堂の前十六番地道路に十六日午後二時頃行路病人が居るのを發見平町役場で調査した處住所不定東京市日本橋區小傳馬町二丁目左官職竹田金次郎（四六）で胃病で困つてゐるものと判明平行路病舎に收容した。

種の話

去る八日朝石城郡幅田町字川原料理店水戸屋裏道路傍に首吊りがある、自殺者があると噂は噂を生んで、とんだ因縁話迄持上つた。近所で聞いても幅田署少しも其自殺者はわからないために水戸屋に訪れて見れば七日同町菊田座に芝居があつた、其觀劇の歸途某村青年が同家の酌婦をひやかした上に道路傍の桐の木に荒縄の太いのを吊しムシロをブラ下て逃走したのを夜半通行の自動車運轉手や早起きの魚賣り野菜行商人が之を首吊り自殺者と錯覺しての話とは……なんのこと

麻雀と取締（一）

A生

麻雀の流行、それは恐ろしいまでのスピードを以て我國朝野を風靡してゐる。然し我國に於ける麻雀の流行は極最近のことであるが、之れは支那が本場で支那では上下の區別なく各家庭に於て室内遊戯の隨一とせられてあり、近く歐米に於て甚だしき流行を見て我國に到來したものである此の麻雀の起源は人々各々唱ふ處を異にしてゐる。支那の口傳へによれば、西暦紀元前禹帝の時代に濫觴を見、當時に於ては之れをパーツンと呼んで宮中に於けるの外、一般臣民の供用を嚴禁せられてゐたとも云はれ當時は紙の牒が用ひられてゐたが、現今では骨牌に代へられてゐる。

西暦一八六〇年に洪秀全が彼の有名な長髮賊の亂を起して南京を占領し、此處に君臨した際初めて此の遊戯を民間に許したもので、その後明の天啓年間時代、水滸傳の百八將時代を經て、今では牌の數も百三十六枚となり、遂に全世界に擴つたものである。

そこで麻雀と云ふ名稱は、牌を搔き廻す時に、その音が恰度竹林に群れる雀の囀きに似てゐるところから出たのだと云はれてゐる、それは兎に角として、支那人にとつては麻雀は單なる遊戯のみでなくして、無學者の多い國民に對して不知不識の間に加減乘除法を覺えしめ、落付きはらつた彼等支那人に、敏速なる暗算に通達せしめると云ふか如き良好なる結果を齎らしたとも云はれてゐるが、これは當にならぬ話しだ。支那人が利を見ることに敏なのは、麻雀をやつて爲等數學を覺えるからだ、と云ふけれど支那人が利を見ることに敏なのは國民性であつて、支那人が高等數學を覺ゆる爲めに麻雀を弄ぶなどゝ云ふことは麻雀ファンの寢言に過ぎない。

（歌）入營軍人に送る

（之を特に野口、中野、堀江君に寄す）

飯村閑舟

ますらをと誇るにたるゝ勸めさを務らすことを我は願へり

したしみを捨てゝ別るゝ君の身の國を負ふての責は重しも

大過なく遂ふのかずは遠けれど心に結ぶ親しみを汲め

かほそくも吾が子の爲めに心して母のいたはる健氣さを知れ

兵舍にも冬枯さの日の痲ましき訪れもかしげず働けますらを。

佛國マルソリー會社元詰
生葡萄酒
マルソリー・ブランク・白
マルソリー・ルージ・赤
ヂ1.10
良品にして安價賣行飛ぶが如し
西村屋藥局

胃腸 梅毒
内科 專門 十二指腸 虫病
淋病 婦人病 專門 皮膚病
松村胃腸病科醫院
平町南町（電話一〇七）

愈々御待兼の
女流浪曲 本日 三羽烏の一人
松平八千代孃 大一行
本日午後五時 花火合圖 開場
前賣券 割引券 ハ當行與ニ限リ一切ナシ
大勉强 入場料 大人三十錢
聚樂館

專賣特許
文化暖爐（火なしあんか）
炭も、揮發油も、電氣も使はず
二十五日間もポカ〱と温い
最新科學の生んだ理想的保温器
定價（一組）三圓
▼一般家庭の保温用（殊に小兒、老人、病人用に）▼病院にはベットの保温用に ▼自動車にはクッションの保温用に ▼旅館等には蒲團の保温用に ▼事務所には椅子の保温用に ▼麻雀倶樂部等には座布團の保温用に……安全と經濟を兼ねた時代の必需品……▲
販賣店
平町四丁目
小野常治商店
電話四十四番

正確ナ度量衡
計量器
吸入用酸素
酸素吸入器
特約店 磐城平町 開内藥局 電四〇番

乘用自動車貸切賃金表（平町基點）

市内

鐵道以南	五〇
鐵道以北	七〇
鎌田	七〇
市内往復	一、〇〇

湯本植田方面

小島	七〇
御廐	一、〇〇
綴	一、五〇
宮	二、〇〇
湯本	二、〇〇
湯長谷	二、五〇
田邊	三、〇〇
泉	四、〇〇
泉（小名濱廻）	五、〇〇
植田	五、〇〇
窪田	六、〇〇
勿來驛	六、五〇

江名方面

中山	一、〇〇
上高久	一、五〇
下高久	二、〇〇
沼ノ内	二、五〇
豐間	三、〇〇
江名及中ノ作	四、〇〇

小名濱方面

湯本廻	四、〇〇
鹿島廻	四、〇〇
片濱廻	五、〇〇
鹿島矢田	一、五〇
同走熊	二、〇〇

四ツ倉方面

鹽野	一、〇〇
草野驛	一、五〇
新舞子	一、五〇
夏井	二、〇〇
仁井田	二、〇〇
四ツ倉	二、〇〇
波立	三、〇〇
玉山	三、〇〇
久ノ濱	三、五〇

小川方面

曲田	七〇
平窪	一、〇〇
下小川大野村入口	一、五〇
關場	二、〇〇
小川郷驛	二、〇〇
福島炭礦	二、五〇
片石田	二、五〇
江田	四、〇〇
川前	六、〇〇

赤井方面

赤井驛附近	一、〇〇
嶽下	一、五〇

好間方面

下好間	一、〇〇
中好間	一、五〇
町田	一、五〇
元山	二、〇〇
成澤	三、五〇
合戸	五、〇〇
渡戸	五、五〇
澤渡	七、〇〇
三坂	一〇、〇〇

一、右賃金ハ五人乘壹輛ノ賃金トス　二、往復ノ場合ハ右賃金ニ壹圓増トス　三、客待一時間壹圓トス　四、一日貸切（十時間）金十五圓トス　五、半日（五時間）金八圓トス　六、以上ノ料金ニ違反シタル時ハ臨時區間外ノ運轉ヲ停止セラル、コトアルベシ

昭和五年十一月六日

福島縣自動車協會平支部

◎レコード破りの石炭大特賣
磐城炭礦二等炭
正味十貫匁一俵金卅錢也
◎「品が良く」「値は安く」をモツトーとする當店は此度超破格の格安石炭を販賣開始致します
◎値が安くとも品は惡くはありません
◎磐城炭礦の處分的大堀出物です、品物の無くならない中に御注文下さい
◎配達は一俵より致します
御注文は 電話三三七番へ
阿部石炭商店
平停車場前

咳止の妙藥
オピール錠
藥學博士 丹波敬三先生製藥指導
醫學博士 豐島慶次郎先生動物試驗
特約店 大平屋藥店
平町一丁目（電話四六二番）